

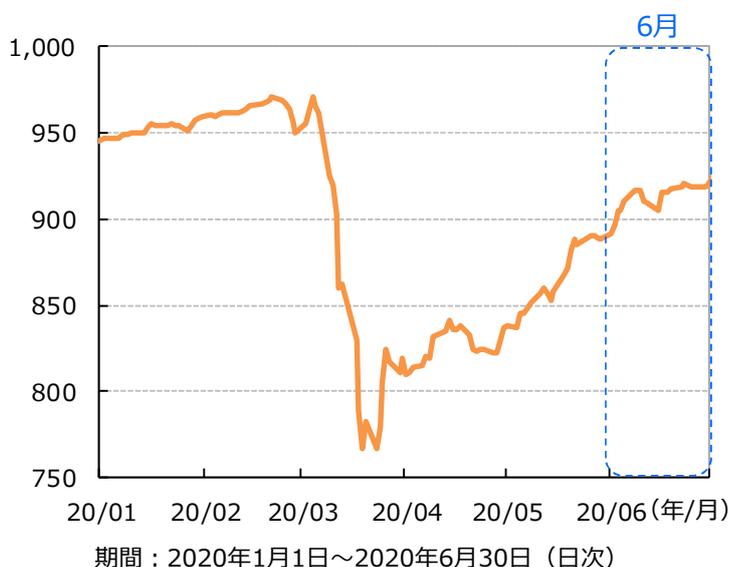
## 米ドル建て新興国債券と新興国通貨の動向

## 【6月の米ドル建て新興国債券は上昇】

●6月の米ドル建て新興国債券は米ドルベースで約3.5%上昇しました。

米国10年国債の利回りがほぼ横ばいで推移する中、新興国債券市場では、原油価格が上昇したことで資源国の債券が買われました。また、先進国では中央銀行の金融政策により、金利が低い状況が続くと予想されるため、より高い利回りが期待できる新興国債券へ投資する動きが強まりました。こうしたことから、新興国債券は上昇しました。

米ドル建て新興国債券インデックスの推移（日次）



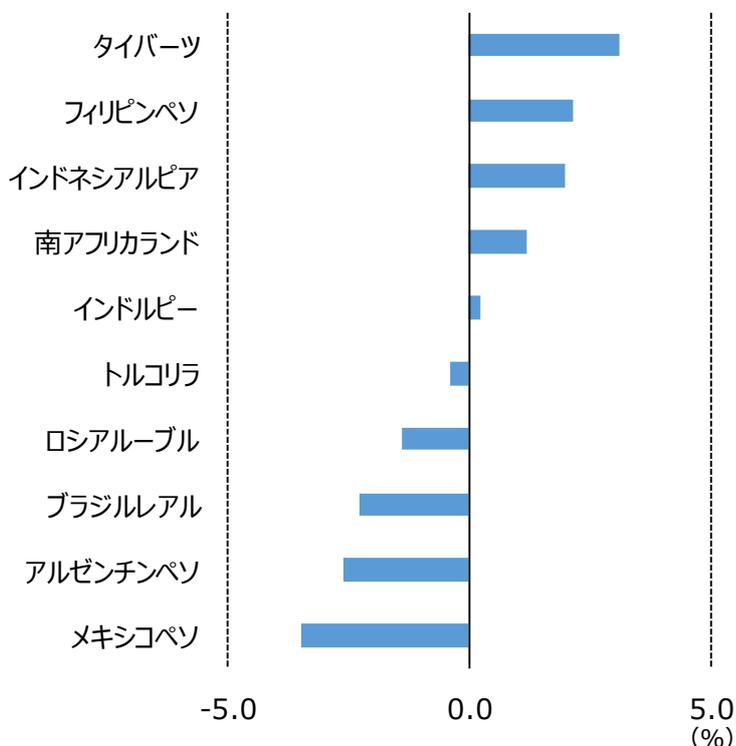
## 【6月はタイバーツが上昇】

●6月の為替レートの騰落率をみると、タイバーツ、フィリピンペソなどが大きく上昇しました。タイでは新型コロナウイルス対策によって制限していた経済活動が再開されたこと、新興国の中でも経常収支が黒字であることなどが好感され、買われました。

一方で、メキシコペソ、アルゼンチンペソ、ブラジルレアルなどが下落しました。いずれも、外貨準備高に対する対外債務の規模が大きな国です。外貨準備高が対外債務に比べて少ないと、返済能力が低く見られます。また、外貨準備を使った為替介入をしにくいと考えられることから、こうした国の通貨が売られたようです。

さらに、ブラジルレアルの場合、ブラジル国内での新型コロナウイルスの感染拡大などにより、大きく下落しました。

6月の主要新興国通貨騰落率（対円）



出所：JPモルガン社、Bloombergのデータに基づきT&Dアセットマネジメントが作成  
米ドル建て新興国債券インデックスは1993年12月末を100として算出されています。

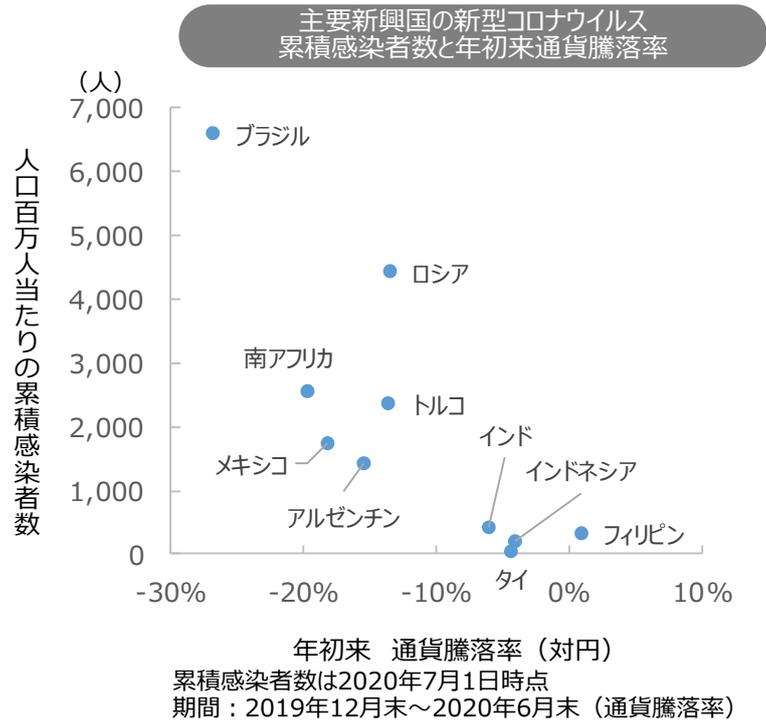
当資料で使用するインデックスデータについては最終ページの【当資料で使用するデータについて】をご確認ください。

**記載のデータは過去のものであり、将来の投資成果等を示唆あるいは保証するものではありません。**

今月の注目点：新型コロナウイルスが為替市場に影響、新興国間で差のある医療体制

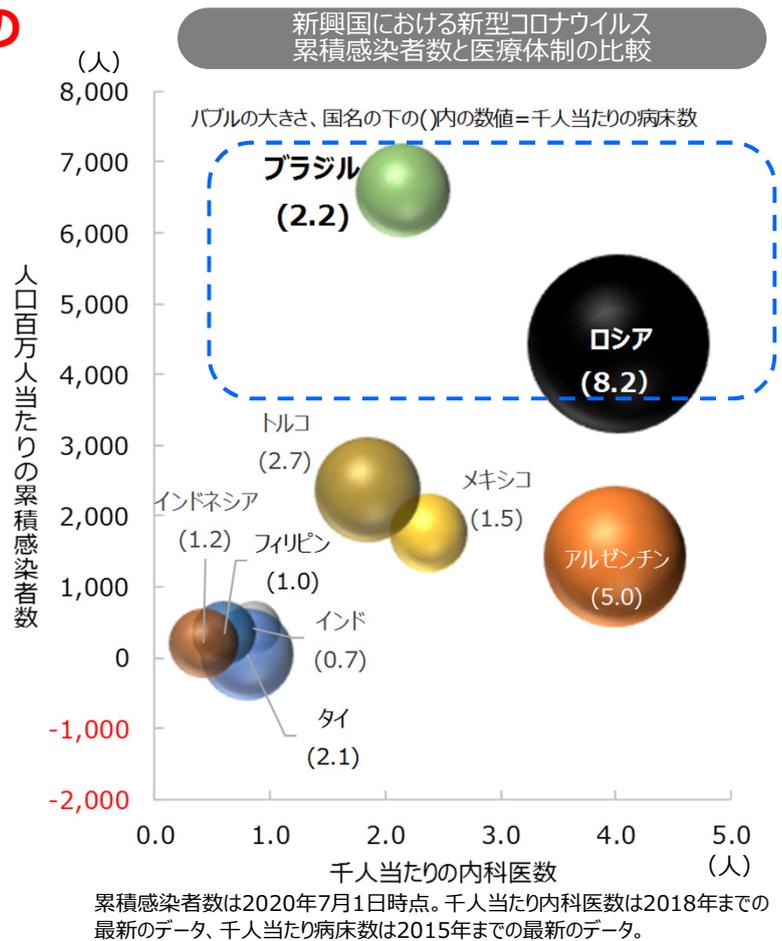
【新型コロナウイルス累積感染者数が為替に影響】

- 現在、新型コロナウイルスの累積感染者数が金融市場に影響しています。累積のコロナ感染者が多い国の通貨ほど下落率が大きい傾向がみられます。
- 実際、年初来の通貨の騰落率をみると、右図のように、人口百万人当たりの累積感染者数が多いブラジルやロシアなどの通貨が大きく下落しています。一方で、累積感染者数の少ないフィリピンやインドネシア、タイ、インドなどの通貨の下落率は相対的に抑えられています。



【医療体制により更なる選別の可能性】

- 現在、新型コロナウイルスが新興国で拡大しています。今後は新型コロナウイルスへの対策によって、新興国の通貨や債券の中で選別が進む可能性があります。
- 例えば、人口百万人当たりの累積感染者数を比較すると、右図のように、ロシアはブラジルの三分の二程度です。一方で、ロシアはブラジルよりも医療体制が充実しており、人口千人当たりの病床数で約4倍、内科医数で約2倍の差があります。
- こうした医療体制の差によって、今後の新型コロナウイルスの累積感染者数の拡大ペースが違ってくる可能性があります。累積感染者数の拡大ペースの違いは、その国の経済状況の見直しを変化させ、最終的に通貨価値や債券価格に影響を与える可能性があります。



出所：厚生労働省、国連、世界銀行、JPモルガン社、Bloombergのデータに基づきT&Dアセットマネジメントが作成  
当資料で使用するインデックスデータについては最終ページの【当資料で使用するデータについて】をご確認ください。

記載のデータは過去のものであり、将来の投資成果等を示唆あるいは保証するものではありません。

【ご留意事項】当資料は、T&Dアセットマネジメントが情報提供を目的として作成した参考資料であり、投資勧誘を目的としたものではありません。したがって、個別銘柄に言及した場合でも、関連する銘柄の当社ファンドへの組入れを約束するものでも、売買を推奨するものでもありません。当資料は、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。当資料は、当社が信頼性が高いと判断した情報等により作成したものです。その正確性・完全性を保証するものではありません。当資料中の数値・グラフ等の内容は、過去の状況であり、将来の市場環境等を示唆・保証するものではありません。ご投資にあたっては、P3のリスクや費用項目を必ずご確認ください。お客様ご自身でご判断ください。

## 投資信託のお申込みに際してのご留意事項

### 投資信託に係るリスクについて

投資信託は、株式、債券、投資信託証券など値動きのある有価証券（外貨建資産には為替変動リスクもあります。）に投資しますので、運用実績は市場環境等により変動します。したがって、投資元本が保証されているものではなく、これを割込むことがあります。これら運用による損益は全て投資者に帰属します。

また、投資信託は、個別の投資信託毎に投資対象資産の種類や投資制限、取引市場、投資対象国等が異なることから、リスクの内容や性質が異なりますので、ご投資に当たっては投資信託説明書

（交付目論見書）をよくお読みいただき、ご自身でご判断ください。

### ご留意いただきたい事項

当資料は、T&Dアセットマネジメントが情報提供を目的として作成したご参考資料であり、投資勧誘を目的としたものではありません。したがって、個別銘柄に言及した場合でも、関連する銘柄の当社ファンドへの組入れを約束するものでも、売買を推奨するものでもありません。当資料は、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。当資料は、当社が信頼性が高いと判断した情報等により作成したものです。その正確性・完全性を保証するものではありません。

当資料中の数値・グラフ等の内容は、過去の状況であり、将来の市場環境等を示唆・保証するものではありません。当資料は作成時点での見解であり、今後予告なく変更する場合があります。ご投資に関する決定は、お客様ご自身でご判断ください。

### 投資信託に係る費用等について

#### ◇投資者が直接的に負担する費用

購入時手数料： 上限 4.40%(税込)  
信託財産留保額： 上限 解約金額・償還金額の0.600% または1口（設定時1口1万円）あたり250円

#### ◇投資者が信託財産で間接的に負担する費用 運用管理費用（信託報酬）： 上限 年 2.035%(税込)

その他の費用・手数料： 上記以外に保有期間に応じてご負担いただく費用があります。投資信託証券を組み入れる場合には、間接的にご負担いただく費用として、当該投資信託の資産から支払われる運用報酬、投資資産の取引費用等が発生します。これらの間接的な費用のご負担額に関しましては、その時々各投資信託証券の組入比率や取引内容等により金額が変動しますので、事前に料率、上限額等を示すことができません。

※上記の費用の合計額については、投資者がファンドを保有される期間等に応じて異なりますので、表示することができません。

※詳細につきましては必ず「投資信託説明書（交付目論見書）」でご確認ください。

#### 《ご注意》

上記に記載しているリスクや費用項目につきましては、一般的な投資信託を想定しております。費用の料率につきましては、T & Dアセットマネジメントが運用するすべての投資信託のうち、徴収するそれぞれの費用における最高の料率を記載しております。

投資信託に係るリスクや費用は、それぞれの投資信託により異なりますので、ご投資される際には、「投資信託説明書（交付目論見書）」の内容をよくお読みください。

### 照会先

#### T&Dアセットマネジメント株式会社

電話番号： 03-6722-4810(受付時間は営業日の午前9時～午後5時)

インターネットホームページ： <https://www.tdasset.co.jp/>

特別な記載がない限り、下記のインデックス(トータルリターン、最終利回り)を使用しています。

- 米ドル建て新興国債券インデックス:JPモルガンEMBIグローバル・ディバースファイド・インデックス  
指数に関する一切の知的財産権とその他一切の権利はJPモルガン社に帰属しております。JPモルガン社は、指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。JPモルガン社は指数の正確性、完全性、信頼性、有用性を保証するものではなく、ファンドの運用成果等に関して一切責任を負うものではありません。
- 当資料中に引用した各インデックス(指数)の商標、著作権、知的財産権およびその他一切の権利は各インデックスの算出元に帰属します。また各インデックスの算出元は、インデックスの内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。